



平賀幸弘院長

大しているが、山梨でも今後多くの感染者が発生する可能性もある。「先が見えないが、長期戦を覚悟して身を引き締めてやっていきたい」

医療

最前線

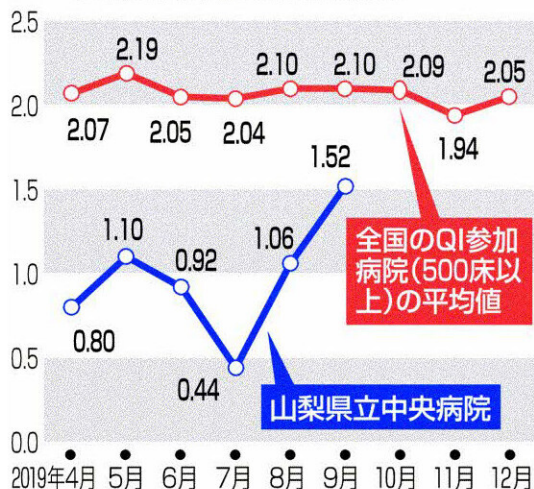
県立中央病院から

〈198〉

新型コロナウイルスが世界的に猛威を振るう中、4月1日に就任した平賀幸弘山梨県立中央病院院長。「今はクライシスを乗り切らないといけないとき。職員一丸となって、県民の健康、生命、医療を守っていく」と力を込める。東京都など都市部を中心に感染が拡

30日以内の予定外再入院率(%)

※日本病院会主催QIより。
退院患者数に対して、退院後30日以内に救急医療入院した患者の割合



新院長、コロナ猛威下で就任 長期戦へ医療の質確保

中央病院は空気が室外に漏れないようにするなど感染症対策がとられた病床があり、県内で唯一、1類感染症にも対応する第1種感染症指定医療機関になっている。2日に1度は早朝から会議を開き、時々刻々と変化する情勢に対

応。県や他病院と緊密に連携を取り「重症・中等症の患者さんにいつでも対応できるように準備している」と話す。一方で、中央病院は総合周産期母子医療センターや高度救命救急センター、県がん診療連携拠点病院などの機能を

備え、ゲノム診療や手術支援ロボット「ダヴィンチXi」などを活用した最先端の医療に取り組む。「病院全体を俯瞰し、県民の命を守る『最後のとりで』の役割をより推進していきたい」

医療の質の改善にも力を入

れる。昨年度から、平賀院長が中心となって医療の質を評価・公表するためのQI(医療の質)プロジェクト(日本病院会主催)に参加。その指標の一つである「30日以内の予定外再入院率」は、中央病院では退院患者の1%前後と、全国の参加病院(500床以上)の平均値2%前後を下回り、入院中の良質な医療提供や退院の判断が適切であることが確認された。昨年2

月に受けた病院機能評価です。耳鼻咽喉科診療に長年従事し、特にがん治療には思い入れがある。「患者さんの思いをくんだ、患者さん中心の医療を目指したい」と話す。Ⅱ第2、4木曜日に掲載しま